

第4回全国校区・小地域福祉活動サミット in 松江



小・中学校区あるいは町内会・自治会などの日常生活圏で、地域福祉活動に取り組む多様な主体が一堂に会し、実践交流を通じて活動の幅を広げ、日々の活動の質を高め合うことを目的に開催します。

2010年9月4日(土)

会場 島根県民会館ほか

時間:12:00~17:00(受付11:00~)

主催 「第4回全国校区・小地域福祉活動サミット in 松江」 やらこい人の会
小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク/全国コミュニティライフサポートセンター
共催 松江市社会福祉協議会、松江市地区社会福祉協議会会長会、島根県社会福祉協議会



日本財団 助成事業
The Nippon Foundation

この事業は競艇の交付金による日本財団の助成を受けて実施しています。

12:00～12:20

挨拶

「第4回全国校区・小地域福祉活動サミットin 松江」やらこい人の会 代表 石原 智 治

開 会

来賓挨拶

松江市
島根県

市長 松浦 正 敬
知事 溝口 善兵衛

12:20～12:50

公民館活動といっしょに築いてきた松江市の小地域福祉活動
～その歴史と実際を、いま紐解く～

基調対談

対談者

松江市社会福祉協議会
(島根県公民館連絡協議会 会長・全国公民館連合会 副会長)
関西学院大学人間福祉学部
(小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク 世話人)

副会長 福 間 敬 明
教 授 牧 里 毎 治

12:50～13:20 移動・休憩

12:50～13:10 移動・休憩

13:20～14:50

フィールド分科会

松江市内の4つの実践拠点に移動して、現場の雰囲気を肌で感じる分科会です。各会場定員80人です(白潟会場のみ50人)。

フィールド分科会1 ● 城北台会場

超高齢化地域における新たなコミュニティづくりの実践

フィールド分科会2 ● 城西会場

地域まるごと子育て応援団

フィールド分科会3 ● 法吉(ほっき)会場

災害時に備えた小地域を基盤とする住民主体の地域福祉実践

フィールド分科会4 ● 白潟(しらかた)会場

商店街の活性化をとおした高齢者・障がい者にやさしいまちづくり

14:50～15:20 移動・休憩

13:10～15:00

分科会 A.B.C.D.E.F

島根県民会館内の各会場に分かれます。全国の多様な実践を紹介します。

分科会A

校区・小地域福祉活動の楽しさを分かち合う実践講座(導入編)

分科会B

支援が必要になっても、地域で暮らし続けることを支える実践
～介護保険や障害者自立支援の事業所との協働を探る～

分科会C

高齢化・過疎化する小地域や集合住宅での実践

分科会D

自治会区における小地域福祉活動の展開

分科会E

実践報告リレー1

分科会F

実践報告リレー2

15:00～15:20 移動・休憩

15:20～16:50

小地域を基盤に、住民と行政が手を携えて、新しい公共をつくらう!
～縦割りから脱却し、横に結び合う社会を～

まとめの
ディスカッション

パネリスト

松江市地区社会福祉協議会会長会
NPO 法人 たすけあい平田
松江市健康福祉部
中国新聞社

会 長 石 原 智 治
理 事 長 熊 谷 美 和 子
部 長 渡 部 厚 志
論 説 副 主 幹 山 内 雅 弥

サポーター

総務省自治行政局 地域自立応援課
厚生労働省
農林水産省
経済産業省地域経済産業グループ 立地環境整備課
国土交通省住宅局 市街地住宅整備室
全国社会福祉協議会 地域福祉部

課 長 野 村 善 史
(調 整 中)
大 臣 官 房 参 事 官 (農 村 振 興 局) 米 澤 俊 介
課 長 野 田 耕 一
室 長 伊 藤 明 子
部 長 野 崎 吉 康

コーディネーター

同志社大学社会学部

教 授 上 野 谷 加 代 子

16:50～17:00

共同宣言・閉会

18:00～20:00

交流懇親会



フィールド分科会

それぞれの活動拠点に
場所を移し、
実践の生の声に
触れてみませんか？

13:20 ~ 14:50

フィールド
分科会 1

城北会場
しよほくだい
(淞北台会館)

超高齢化地域における 新たなコミュニティづくりの実践

40年前に開発された新興住宅団地において、住民自ら自治会を
基盤とする高齢化対策に取り組む淞北台団地の実践から学ぶ

自治会を基盤とした住民組織を立ち上げ、交流館を拠点とした生きがいづ
くり・介護予防活動を展開中。現在、外部の住民参加型福祉サービス事業を
利用するなど、協働のしくみづくりも始めました。また、2年前より国土交
通省の団地再生事業の指定を受け、新たな地域課題の解決に挑んでいます。

+ 登壇者

淞北台自治会 会長 森山 清文
淞北台いきいきライフを推進する会 会長 高橋 博

+ サポーター

総務省自治行政局 地域自立応援課長 野村 善史

+ コーディネーター

法政大学現代福祉学部 教授 宮城 孝

2

フィールド
分科会 2

城西会場
(城西公民館)

地域まるごと子育て応援団

地域全体で子どもを見守り・育て・共生する城西地区の
取り組みと、子育て支援を柱としたコミュニティづくり

「うちの子どもの地域の中へ！」障がいのある子どもをもつ親たちの熱い
思いは、地域を動かし、公民館やさまざまな団体の応援で、バス旅行、堀川
遊覧、文化祭への参加など、地域とともに活動できるまでに成長しました。
障がいのある子もない子も「城西の宝」、そんな風土のこの街で、地域の一員
としていつまでも暮らしていけることを願っています。
城西で生まれ、育った漫画家 故 園山俊二氏ゆかりの資料もそろえました
ので、ごらんください。

+ 登壇者

城西あったか広場 代表 田中 朱美
城西あったか広場 引野 まさよ

+ サポーター

全国社会福祉協議会 地域福祉部長 野崎 吉康

+ コーディネーター

島根大学教育学部 教授 肥後 功一

フィールド
分科会 3

ほっき
法吉会場
(法吉公民館)

災害時に備えた小地域を基盤とする 住民主体の地域福祉実践

災害時における支え合いの仕組みづくりを検討したい。けれど、地域
が動かない。そんな悩みを抱えていませんか？ 法吉地区ではどのよう
な過程を踏んで仕組みづくりができたのか。またその後の住民主体の
まちづくりの動きは？

+ 登壇者

法吉公民館 館長 渡部 浪子
黒田自治会防災隊 代表 高橋 幸男

+ コーディネーター

日本福祉大学社会福祉学部 准教授 原田 正樹

フィールド
分科会 4

しろかた
白濁会場
(天神商店街)

商店街の活性化をとおした 高齢者・障がい者にやさしいまちづくり

全国的にシャッター通り商店街が増えるなか、毎月25日に「おかげ天神市」
を開催し、高齢者にやさしいまちづくりを展開しています。
また、社会福祉法人桑友との協働による障がい者の働く場の開拓にも
取り組んでいます。日本一高齢化率の高い島根県、その県庁所在地の
中心地にある天神町商店街の実践から、「福祉でまちづくり」を一緒に
検証しませんか？

+ 登壇者

天神町商店会 理事長 中村 寿男
社会福祉法人桑友 事務局長 高橋 尚志

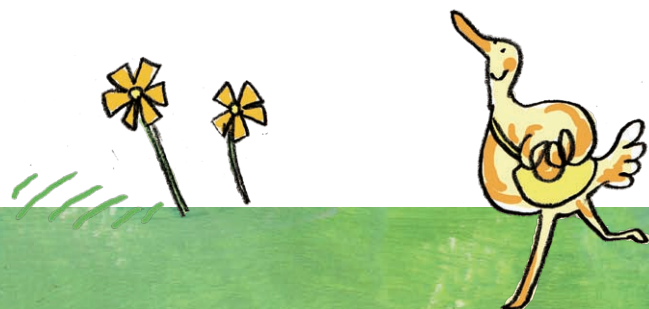
+ サポーター

経済産業省地域経済産業グループ 立地環境整備課長

野田 耕一

+ コーディネーター

桃山学院大学社会学部 准教授 松端 克文



分科会 A

校区・小地域福祉活動の楽しさを分かち合う実践講座（導入編）

「楽しくなければ活動は続かない」これは、実践者が口々にする言葉です。
この講座では、小地域福祉活動の実践紹介をとおして、実践の楽しさを分かち合います。

実践報告

うちの実家（新潟県新潟市）
笑い庵（鳥取県米子市）
宮崎市大塚台地区社会福祉協議会（宮崎県宮崎市）

代表 河田 瑠子
住田 済三郎
会長 石沢 徳子

サポーター

日本財団福祉チーム

内本 一洋

コーディネーター

島根大学法文学部

准教授 加川 充浩

うちの実家
（新潟県新潟市）

誰かに会いたい、話したい、一緒にお茶のみしたい、行くところが欲しいという人々の願いに応えた、毎日型の地域の茶の間。子ども、お年寄り、障害の有無にかかわらず、だれでも、いつ来てもいつ帰っても大丈夫な場所。みんなが主役の居場所です。

笑い庵
（鳥取県米子市）

地域の人たちの力で、米子市西倉吉町にあった空き店舗を改装し、住民の集える無料休憩所「笑い庵」をオープン。現在は、地域活性化の一環として新しい仲間を呼び込み、新規開店を目指しています。周辺でも、若い経営者が古民家を改修し、おしゃれなお店が増えています。

宮崎市大塚台地区社会福祉協議会
（宮崎県宮崎市）

大塚台地区は自治会と民生委員協議会が地区社協の柱として、しっかりと土台を築いています。また、地域自治会・地区社協の協力や役割がはっきりしていて、地域組織の連携が市内で一番いい。いろいろな人々や機関を巻き込みながら、地域に根づいた地域活動に取り組んでいる地区です。

分科会 B

支援が必要になっても、地域で暮らし続けることを支える実践
～介護保険や障害者自立支援の事業所との協働を探る～

支援が必要になっても、地域で暮らし続けるためにはどうすれば良いのか。
事業所だけに任せない、地域住民だけで頑張りすぎない、事業所と住民との協働のあり方を探ります。

実践報告

大張物産センターなんでもや（宮城県丸森町）

代表 中村 次男

壬生町六美南部自治会・のぞみホームを応援する会（栃木県壬生町）

会長 井上 洋一

三原さん家（福岡県久留米市）

三原 圭子

サポーター

厚生労働省

（調整中）

コーディネーター

神戸学院大学総合リハビリテーション学部

准教授 藤井 博志

大張物産センターなんでもや
（宮城県丸森町）

買い物をしたくても店がない生活を解消しようと、商工会大張支部の有志によってつくられました。この地区に暮らす人が必要とするものなら何でも取り扱おうという想いから名づけられた「なんでもや」。地域住民の大切な交流の場所になりました。

壬生町六美南部自治会
のぞみホームを応援する会
（栃木県壬生町）

小規模多機能ケアを実践する「のぞみホーム」を、さまざまなかたちで支援しています。自分たちに介護が必要になったときにお世話になる事業所を、地域住民自ら盛り立てています。この春には、のぞみホームと一緒に地域の人も参加して火災訓練を実施しました。

三原さん家
（福岡県久留米市）

福岡県久留米市の、のどかな農村地域、高齢者も多い地域のなかで、三原圭子さんのご自宅を使い、近所の高齢者の集いの場、しょうがいのある方の住まいの場をつくりました。「向こう3軒両隣」をモットーに、地域でお互いに支え合うことを広げています。



高齡化・過疎化する小地域や集合住宅での実践

分科会 C

急速な高齡化は地方だけの問題ではありません。都市部においても、高齡化・過疎化する集合住宅や地域が生まれるなかで、住民同士の支え合いや次代の担い手づくりなどの事例を紹介します。

実践報告

みらいネット高島平(東京都板橋区)
かんのがわ HBP(奈良県十津川村) 事務局長 岡田 亥早夫
吹上ワンダーマップ実行委員会(鹿児島県日置市)
実行委員長 博多 和宏

サポーター

国土交通省住宅局 市街地住宅整備室 室長 伊藤 明子

コーディネーター

日本福祉大学社会福祉学部 教授 平野 隆之

みらいネット高島平 (東京都板橋区)

高島平は、東京都板橋区に位置する大規模集合住宅で、近年急速な高齡化が進んでいます。みらいネット高島平では、大東文化大学の教員と高島平の住民が協働しながら、「地域社会も大学も、もっと元気！」になるため、さまざまな活動を展開中です。

かんのがわ HBP (奈良県十津川村)

日本で一番面積の大きな村である、奈良県十津川村。子どもたちが農山漁村での長期宿泊活動を推進するために始まった「子ども農山漁村交流プロジェクト」を活用し、農家民宿での宿泊を通じて、実生活と異なった環境や人間関係の中でさまざまな体験を提供することで、農村地域を元気にしています。

吹上ワンダーマップ実行委員会 (鹿児島県日置市)

日置市の旧吹上町に暮らし、廃校跡をアトリエに活動する芸術家たちと、地区公民館を軸に地域住民がつながり、アートを通じて地域の価値を再確認するイベント「吹上ワンダーマップ」を毎年開催しています。回を重ねるごとに、参加者や協力者も増え、地域のつながりは深まり、なにより地域住民が輝いています。

自治会区における小地域福祉活動の展開

分科会 D

島根県社協では、これまでの小地域福祉活動を、さらに細部にわたり機能させる取り組みとして、住民のもっとも根っこの部分である自治会区における新たな支え合いづくりを、「しまね流自治会区小地域福祉活動推進事業」として進めています。

この分科会では、先行事例をもとに、自治会区での小地域福祉活動の推進方策や、自治会区だけでは解決できない課題に対する外部支援の受け入れ方などについて議論します。

実践報告

江津本町第一自治会 ほのぼの福老会(島根県江津市)
会長 黒川 聡
下高尻自治会 下高尻福祉会(島根県吉賀町)
事務局長 渡辺 栄治
崎地区自治会(島根県海士町)
小仲 進

サポーター

農林水産省 大臣官房参事官(農村振興局) 米澤 俊介

コーディネーター

島根大学教育学部 准教授 作野 広和

江津市江津本町第一自治会 ほのぼの福老会 (島根県江津市)

江津本町第一自治会は、歴史的建造物が多く残る旧中心市街地の自治会です。ほのぼの福老会は、「できることから、無理せずに」をモットーに、地域の諸団体と連携しながら、高齢者を対象とした健康相談の実施や、緊急連絡カードの作成と各家庭への配布、新聞販売店との連携による見守り活動の推進など、ふれあいと支え合いの活動を展開しています。

下高尻自治会 下高尻福祉会 (島根県吉賀町)

下高尻自治会は、県西端に位置し、自然環境豊かな中山間地の自治会です。下高尻福祉会は、5年後の地域の姿をイメージしながら福祉活動計画を策定。ふれあいサロンや災害時要支援者の見守りなどの福祉活動に留まらず、自然の恵みを活かした農産加工品販売など、集落の維持・活性化につながる幅広い活動を展開しています。

崎地区自治会 (島根県海士町)

日本海に浮かぶ隠岐諸島、本土から60キロ離れたその島々の中で、3番目に大きな島(町)が海士町です。人口2,400人の島には14の自治会区があり、崎自治会は中心部から一番離れた場所に位置しています。その昔は汽船発着場の港町として栄え、後鳥羽上皇の上陸地として歴史、文化にも恵まれていますが、少子高齡化によるコミュニティの脆弱化は、住民も危機感を感じています。その中で、1・Uターンを積極的に迎え入れ、地域の存続を目指すなど努力をしており、文化の伝承や世代間のギャップに苦慮しながらも、コミュニティの存続を模索中です。

全国から実践報告者を公募しました。実践者のナマの声をリレー形式でお届けします。

分科会 E 実践報告リレー1

コーディネーター 小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク 西村 ミチ江
(日立市鳩山学区区住みよいまちをつくる会会長/茨城県)

No.	団体名(都道府県)	発表テーマと概要
1	特定非営利活動法人福祉ネット星が丘 (兵庫県神戸市)	当事者主権と星が丘ホームの役割 「生かされている時代」から「生き抜く」時代へ転換するには我々は何をすべきなのか。自身の経験をふまえて、当事者本人とサポートする側の関係・あり方を考える。
2	フロイデ総合在宅サポートセンター城里 (茨城県城里町)	高齢者がシャッター通りを歩き、障害者が空き店舗で地域に繋がる リハビリする高齢者がシャッター通りに残されたお店まで歩行訓練する。中途障害者が空き店舗を活用したエコショップで役割を見つける。地域の馴染みの関係を再構築し、リハビリの成果の先にあるものを報告する。
3	古江地区社会福祉協議会 (島根県松江市)	地域支援会議をととした小地域福祉活動の実践 古江地区社会福祉協議会では、障がい者支援事業を通して、障がいのある人もない人も地区住民として知り合い、理解するためのきっかけをつくり、社会での安心した生活や個人の自立にむけて、地域全体で活動に取り組んでいる。
4	鳥取大学地域学部 (鳥取県)	過疎農山村における独居高齢者の生活実態と地域生活継続支援のあり方 限界集落化が進む過疎農山村では、独居高齢者が住み慣れた地域での生活を諦め施設に移住するケースが増加しています。報告では、不便な農山村であっても、そこで最期まで暮らしたいという願いを実現する手段として、「ケア付き共同住宅」の可能性に着目し、調査結果を交えつつ、その実例を紹介します。
5	<small>いんべ</small> 忌部地区社会福祉協議会 (島根県松江市)	地域支援会議をととした小地域福祉活動の実践 自治会単位による小地域で福祉推進員、民生児童委員による見守りネットワークや、自治会との協働により福祉情報交換会を開催し、生活課題を抱える高齢者を支援する取り組みを行っています。
6	志村大宮病院・茨城北西総合 リハビリテーションセンター (茨城県常陸大宮市)	病院と商店街のコラボレーション ～地域活性に向けた取り組み～ 私たちの病院は過疎地域にあり、病院に通われる対象者も高齢者が多いのが現状です。隣接する商店街と地域活性に向けて、協働の取り組みを開始しました。ベンチプロジェクト等、商店街と連携した取り組みを報告します。

分科会 F 実践報告リレー2

コーディネーター 小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク 小倉 勝世
(大津市雄琴学区社会福祉協議会会長/滋賀県)

No.	団体名(都道府県)	発表テーマと概要
1	雑賀地区社会福祉協議会 (島根県松江市)	健康まつえ21 推進隊、雑賀地区活動報告 健康まつえ21 推進隊 19名が「人と人の楽しい交わりで元気な私をつくろう」を目標に、食・ウォーキング・学びの3部会に所属。地域住民の参画(協働)と健康の視点で、地域活動を捉えて活動を進めている。
2	浅口市社会福祉協議会 (岡山県浅口市)	ラジオ体操でつくる地域の連帯 夏の朝、子供に交じって大人たちも集まる。ラジオ体操を地域ぐるみで行うことで、世代間交流・子育て支援・地域の活性化に一役かっている。岡山県浅口市では、夏の風物詩ラジオ体操に異変が…。
3	大石学区社会福祉協議会 (滋賀県大津市)	三位一体で福祉先進学区をめざし奮闘中 “安全・安心の街づくり”を合い言葉に、福祉活動の充実強化策として、学区内の福祉団体、介護・医療施設、福祉行政の三者を組織化した。三位一体の協力と連携効果は予想以上で、活動にも弾みがつき、成果も大きい。
4	しまんと町社会福祉協議会 (高知県四万十町)	生活支援サポーター養成講座 住民間の支え合い活動の推進が主目的。単に活動の担い手だけでなく、活動がサポーター自身の自己表現、生きがいとなり、地域での支え合いやボランティア活動が、自身の介護予防・地域の福祉教育となることを目指す。
5	山田区 (島根県隠岐の島町)	集落の元気がなくして繁栄なし! 山田区の取り組み 「地区から目を逸らさない」をモットーにがんばる山田区の取り組み。サロン活動や見守り活動、伝統文化の継承などの取り組みと、それらを支える組織づくりなど、地区の元気を支える区運営を行っています。
6	幡屋地区福祉委員会 (島根県雲南市)	地域のみんで支える子育てサロン 雲南市幡屋地区では、関係機関と連携しながら地域主体での子育てサロンを毎月展開しています。設立して5年目を迎え、地域の皆さんから「なくてはならない」と愛されるようになった地域ならではのサロンを紹介します。



出店ブース大募集!

サミット会場内（大ホールホワイエ）で、
校区見本市と題して、
小地域福祉活動を紹介するブースを設けます。
日頃の活動の紹介をいただくほか、出版物や物産品の頒布など、
自由にご利用いただけます。

募集数 20団体

- 条件
- ① 出展できるのは、小地域福祉活動を行う団体に限ります。
 - ② ポスター等の展示もしくは授産品等の頒布を行う場合に限ります。
 - ③ 1団体1パネルまでです。
 - ④ 配布資料、展示物等は、展示場所の置ける限りとします。
 - ⑤ 搬入物の事前受け取りは行いません。当日会場に直接お持ちください。

出展料 無料 ※ただし、出展者はサミットへの参加申込が必要(1人3,000円)

お申込み 松江市社会福祉協議会 地域福祉課
〒690-0852 松江市千鳥町70番地 松江市総合福祉センター内
TEL 0852-24-5800 FAX.0852-27-3789

全国社会福祉協議会 主催

9/5(日) 開催セミナーのご案内

サミット翌日の9月5日(日)には、松江市内のくにびきメッセ(島根県立産業交流会館)で、
全国社会福祉協議会が主催する2つのセミナーが開催されます。
校区サミットとあわせて、ぜひご参加ください!!

平成22年度 地域の福祉力セミナー

日時 平成22年9月5日(日) 9:30開会 15:30閉会

会場 松江市・くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)
3階「国際会議場」

内容 ●情勢説明「地域福祉をめぐる最近の動向」
●基調講演「地域の福祉力と社会福祉協議会の役割」
●シンポジウム
「福祉・介護事業所と住民福祉活動の協働を考える」

参加費 5,000円

平成22年度 ふれあい・いきいきサロン 全国交流集会

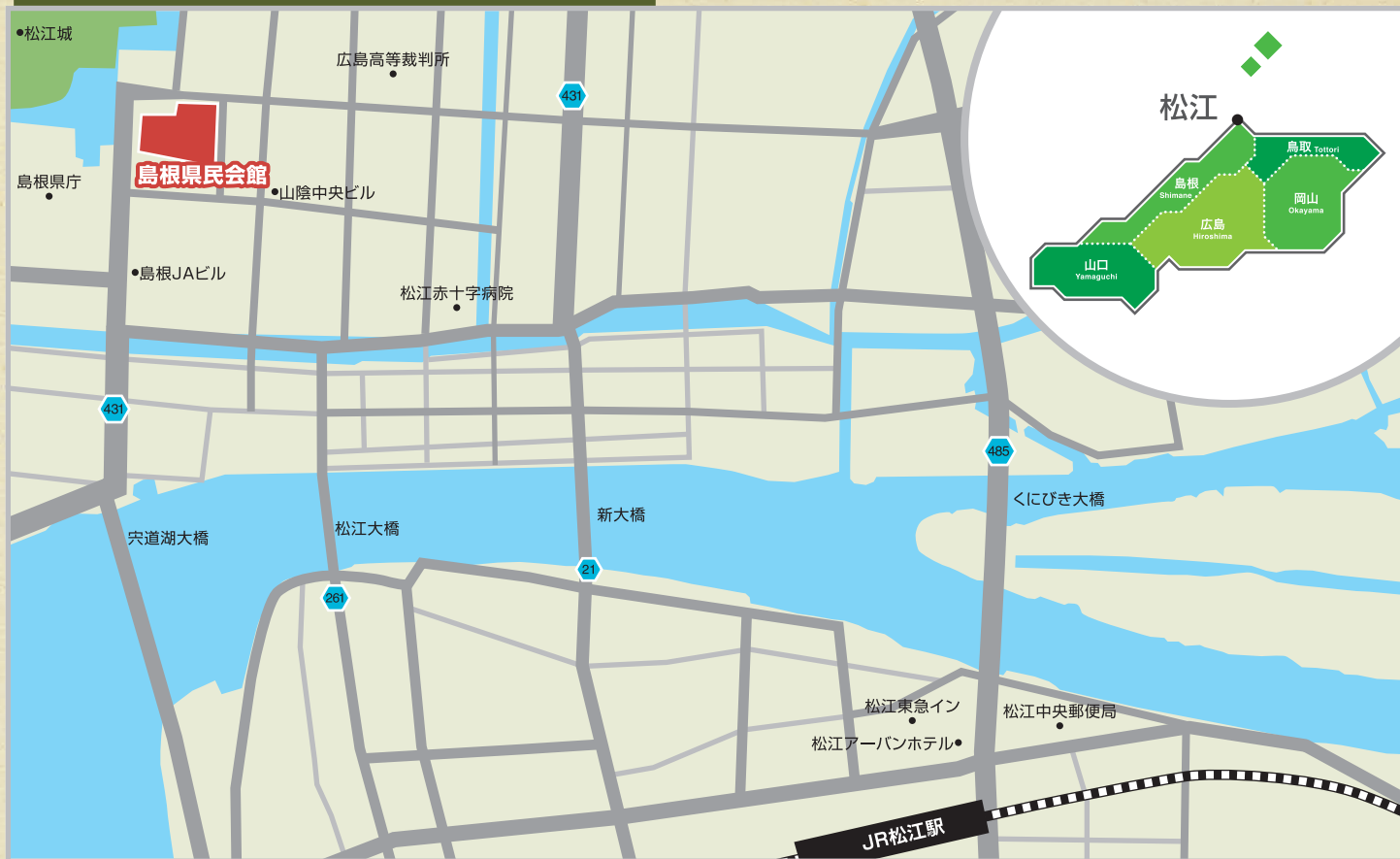
日時 平成22年9月5日(日) 10:00開会 15:30閉会

会場 松江市・くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)
1階「多目的ホール」

内容 ●シンポジウム
「ふれあい・いきいきサロンと地域づくり」
●ワークショップ「魅力あるプログラムづくり」

参加費 無料

会場案内



● J R 松江駅より

徒歩 20 分

松江市営バス／「大学・川津行」(2 番のりば)、「松江しんじ湖温泉行」(3 番のりば)、「北循環線 (外回り)」(1 番のりば)で 10 分「県民会館前」下車
一畑バス／「美保関ターミナル行」(2 番のりば)、「松江しんじ湖温泉行」(3 番のりば)、「法吉ループ」(6 番のりば)で 10 分「県民会館前」下車

運賃：170 円 (北循環線は 200 円)

● 出雲空港より J R 松江駅・松江しんじ湖温泉駅まで空港連絡バス。タクシー 30 分

● 米子空港より J R 松江駅まで空港連絡バス。タクシー 45 分

● お車の場合

会場には駐車場もございますが、駐車可能な台数にも限りがございます。満車の場合は、近隣の駐車場をご利用ください。

また、バスで乗り合わせて来られる場合には、事務局までその旨ご一報ください。

大会概要

● 日 時 2010 年 9 月 4 日 (土) 12:00 ~ 17:00 (受付 11:00 ~)

● 会 場 島根県民会館ほか

● 定 員 1,200 人

● 参加費 3,000 円

● 申込締切 2010 年 8 月 13 日 (金)

● 主 催 「第 4 回全国校区・小地域福祉活動サミット in 松江」やらこい人の会
小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク／全国コミュニティライフサポートセンター

● 共 催 松江市社会福祉協議会、島根県社会福祉協議会、松江市地区社会福祉協議会会長会

● 後 援 (予定) 松江市、島根県、総務省、厚生労働省、農林水産省、全国社会福祉協議会、松江市公民館運営協議会連合会、松江市町内会自治会連合会、松江市公民館長会、松江市公民館協議会、松江市民生児童委員協議会連合会、松江市老人クラブ連合会、松江市 PTA 連合会、松江市教育委員会、島根県教育委員会、朝日新聞社 松江支局、読売新聞 松江支局、日本経済新聞社 松江支局、毎日新聞社 松江支局、産経新聞社(株) 松江支局、島根日日新聞 松江支社、新日本海新聞社 松江支社、中国新聞社(株) 松江総局、山陰中央新報社、HK 松江放送局、山陰中央テレビ、日本海テレビ、山陰放送株式会社、山陰ケーブルビジョン株式会社、エフエム山陰

お問い合わせ先

<内容についてのお問い合わせ先>

「第 4 回全国校区・小地域福祉活動サミット in 松江」やらこい人の会

事務局：全国コミュニティライフサポートセンター

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1 階

TEL：022-727-8730 FAX：022-727-8737

<参加申込についてのお問い合わせ先>

J T B 中国四国松江支店

「第 4 回全国校区・小地域福祉活動サミット in 松江」係

〒690-0003 島根県松江市朝日町480-8 松江 SKYビル4 階

TEL:0852-23-6720 FAX:0852-23-7739

E-Mail：matue_ei@jtb.jp

営業時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分 (土・日・祝日休業)

担当：柴田・楠・樋野